

# 第2次吉武地区地域福祉活動計画

(2018～2022 : 5 力年計画)



～みんなが正助さん～

平成30年3月

吉武地区福社会

## 第2次吉武地区地域福祉活動計画

### 基本理念「みんなが正助さん」策定にあたって

吉武地区福祉会

会長 矢野邦彦

吉武地区福祉会では、平成25年に5か年計画を立て、活動して参りました。事業のスムーズな推進や福祉力の向上が図られたと確信しています。

近年は、少子高齢化や2025年問題など時代の変化と共に、取り組むべき課題も変化してきました。そこで、今回、吉武地区地域福祉活動計画（第1次計画）の評価・課題を踏まえ、第2次吉武地区地域福祉活動計画（第2次計画）を策定しました。

第1次計画を継承しながら、吉武の正助さんの心、すなわち自助・共助のお手本として地域力を高めようという思い、そしてこの計画に沿って、元気で明るく住みやすい地域をみんなで助け合いながら築いていくことを願って策定いたしました。

委員の皆さんの熱心な検討をいただきましたこと、また宗像市社会福祉協議会の多大のご指導ご協力をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。今後とも、地域福祉活動を推進する本会活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

平成30年3月

# 目 次

I	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	○福祉会について	
	○社会福祉協議会について	
	○吉武地区地域福祉活動計画について	
	○計画の位置付け	
	○計画の期間	
II	第1次計画の評価と課題・・・・・・・・	4
III	吉武地区の現状について・・・・・・・・	8
IV	基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・	9
V	基本計画・・・・・・・・・・・・・・・・	10
VI	実施計画・・・・・・・・・・・・・・・・	11
VII	資料編・・・・・・・・・・・・・・・・	13
	■吉武地区の概要	
	(1) 歴史等	
	(2) 人口・世帯数等	
	■吉武地区福祉会地域福祉活動計画策定委員会設置要綱	
	■地域福祉活動計画策定委員会名簿	
	■地域福祉活動計画策定委員会スケジュール	

# I はじめに

## 福祉社会について

- 「福祉社会」とは、自分の住んでいる地域を住民の手で誰もが安心して生活しやすいように活動を行う住民の自主的な組織です。
- 「地区」を単位とする「地区福祉社会」は、市内全 13 地区、自治会単位で福祉活動を行う「小地域福祉社会」は 45 自治会で結成されています。（平成 29 年 3 月末現在）
- 吉武地区福祉社会は、昭和 63 年 10 月 29 日に結成され、住民主体の福祉活動を推進しています。

## 吉武地区地域福祉活動計画について

- 吉武地区地域福祉活動計画とは、「吉武地区福祉社会」が行う地域福祉活動の目的を明確にし、その目的を達成するための取り組みを計画的・効率的・効果的に推進するための計画です。
- 最初は 2012 年に 2013 年～2017 年度の 5 か年計画（以下、「第 1 次計画」）が策定されました。
- 第 2 次吉武地区地域福祉活動計画（以下、「第 2 次計画」）は、吉武地区で活動している様々な団体が策定委員として参加し、福祉的な要素だけでなく、地域全体の意見や視点を取り入れました。

## 計画の位置付け

- この計画は、社会福祉協議会が策定した第 4 次地域福祉活動計画と関連があり、第 4 次計画と連携することでより充実した吉武地区福祉社会の地域福祉を推進・充実しようとするものです。

## 計画の期間

- この計画の期間は、2018 年度から 2022 年度までの 5 か年とします。
- また計画策定後に見直しの必要性が生じた場合には、必要に応じて見直しを行います。

## 社会福祉協議会について

- 「社会福祉協議会」という組織は、社会福祉法第 109 条に「地域福祉の推進を目的とする民間の中心的な団体」として規定されています。また、社会福祉協議会の組織構成や事業等も社会福祉法に定められており、その活動は「民間性」と極めて高い「公共性」が特徴です。
- 社会福祉協議会では、社会背景が時代とともに変化していく中で、地域の多様な福祉ニーズに応え、地域住民やボランティア、様々な団体・事業所と連携・協力し、その地域の特性を活かしながら地域福祉活動に取り組んでいます。
- 宗像市社会福祉協議会は、地域福祉の専門機関として、各地域で福祉活動を行っている「福祉社会」の支援を重点目標のひとつとして取り組んでいます。

## Ⅱ 第1次計画の評価と課題

策定委員会において、第1次計画の進捗状況や評価、課題を検討しました。

### 1. 地域ぐるみで親孝行

#### (1) よしたけ孝行ネットワーク活動(=見守りネットワーク活動)の推進

事業名 1. よしたけ孝行ネットワーク「孝行ネット」の推進	
第1次計画	
実施の内容	●自治会長や民生委員児童委員へ「孝行ネット」の推進を働きかけます。
第1次計画に対する評価と課題	
評価	○毎年、自治会長や民生委員児童委員をはじめ、すみれサロン（年9回実施）の参加者に対して孝行ネットの紹介や説明を行い、「孝行ネット」の推進を図りました。 ○吉武小学校が実施する「文化祭」（年1回開催）やコミュニティ運営協議会が実施する「遊ぼう会」（年5回開催）において「孝行ネット」の紹介を行いました。 ○「孝行ネット」が自治会単位でどの程度取り組まれているのか、現状把握ができていません。
課題	■「孝行ネット」が地域でどの程度活用されているか、実態調査を行うなど活用状況の把握が必要です。 ■活用状況を把握したうえで、さらなる推進を図るための検討が必要です。

事業名 2. よしたけ孝行ネットワーク活動(=見守りネットワーク活動)の体制整備	
第1次計画	
実施の内容	●福祉会は民生委員児童委員や自治会などと連携し、見守りネットワーク活動の推進について検討します。 ●自治会長会へ働きかけ、隣組長へ見守りの協力を依頼します。（見守り対象者宅へ月に2回の広報配布時に手渡し訪問を行うなど） ●見守りボランティア（福祉員：仮称）を設置します。
第1次計画に対する評価と課題	
評価	○福祉会役員会（月1回）にて見守りネットワーク活動の必要性について検討しました。 ○自治会長会への見守りネットワーク活動についての説明や依頼などの働きかけを行っていないため、隣組長が広報配布時に対象者へ手渡しを行うなどの取り組みは実施できていません。 ○吉武地区の高齢化率は、平成29年3月末現在には43.4%になり、自治会すべてが高齢化率30%を超えています。地域の高齢化や福祉活動の担い手不足により新たに「見守りボランティア」を設置することは難しい状況です。
課題	■吉武地区においては、地域で集まる機会や顔を合わせる機会が多く、日常的に住民同士のつながりがありますが、高齢化が進む中、65歳以上のひとり暮らしや高齢者夫婦世帯など支援を必要とする世帯が増えてくることも推測できます。地域全体で見守っていく見守りネットワーク体制を検討していく必要があります。

事業名 3. 見守りボランティア(福祉員:仮称)の設置	
第1次計画	
実施の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●福祉会は、見守りボランティア(福祉員:仮称)を設置します。</li> <li>●見守りボランティア(福祉員:仮称)の人材の養成を行います。</li> </ul>
第1次計画に対する評価と課題	
評価	○福祉会役員等で見守りボランティアの設置について検討を行いました。しかし、地域の高齢化や福祉活動の担い手不足により、見守りボランティアの人材育成ができず、設置できていません。
課題	■地域の高齢化や福祉活動の担い手不足により、新たに「見守りボランティア」を設置・育成することは難しい状況です。よって、隣組長や向こう三軒両隣など地域の人材を活用した日常的な見守りの体制作りを検討する必要があります。

## ■■ 地域住民の交流の場づくりの推進 ■■

### (2)いきいきふれあいサロン活動の充実と活性化

事業名 4. すみれサロンの拡充と内容の充実	
第1次計画	
実施の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●必要に応じて、すみれサロンボランティアの募集を行います。</li> <li>●運営や内容の充実を図るため、すみれサロンボランティアの研修を充実します。</li> </ul>
第1次計画に対する評価と課題	
評価	<p>○すみれサロンや8自治会を年1回ずつ(城南ヶ丘では年2回開催)巡回する形態で年9回開催していますが、地域からはさらにサロンの開催回数を増やしてほしいといった要望もあがっています。</p> <p>○すみれサロンのボランティアは現在13名が登録し活動しています(平成29年12月現在)。すみれサロン開催の案内状とコミュニティ運営協議会の広報紙「しんたて」を通じてボランティアの募集を行っていますが、新規ボランティアの入会がない状況です。</p> <p>○すみれサロンの内容や運営方法、すみれサロンの参加者に提供する食事のメニューなどについての研修や会議を定期的開催し、サロンの充実を図っています。</p>
課題	■地域住民のすみれサロンの回数を増やしてほしい等の要望に対応するため、高齢者等の「居場所づくり」などボランティアの負担を軽減した新しいサロンの運営方法についても検討が必要です。

## 2. 未来へつなぐ正助さんの人づくり

### 子どもがいきいきと育つまちづくりの推進

#### (3) 世代間交流事業の推進

事業名 5. 世代間交流事業の推進	
第1次計画	
実施の内容	●コミュニティ運営協議会青少年育成部会と連携し、世代間交流事業の取り組みについて、実施内容を検討します。
第1次計画の評価と課題	
評価	○福祉会の世代間交流事業の「夏休みの川遊び」として吉武小学校の学童保育所に通う児童との交流が主になっています。 ○コミュニティ運営協議会と連携し、お手玉大会やもちつき大会などを通じて子どもと高齢者との交流を行っています。
課題	■コミュニティ運営協議会だけでなく、吉武小PTAなどと連携し、子どもから高齢者までの幅広い世代間交流の取り組みを検討する必要があります。

#### (4) 福祉教育(学習)への協力・支援

事業名 6. 学校や地域での福祉教育(学習)の推進	
第1次計画	
実施の内容	●小学校で行われている福祉教育(福祉学習)の取り組みについて、積極的に支援・協力します。 ●地域の福祉活動の紹介や小学生の福祉活動への参加など学校と連携して福祉教育に取り組みます。 ●地区住民への福祉教育(福祉学習)については、広報活動などを通じて行います。
第1次計画に対する評価と課題	
評価	○吉武小学校1年生の福祉教育「昔遊び」の学習に地域の高齢者が協力しています。 ○吉武小学校6年生の福祉教育「高齢者を理解する学習」の中で、福祉会役員が吉武地区の福祉活動について講話するなど学校と連携した取り組みを実施しています。
課題	■学校での福祉教育については、学年に応じた継続的な取り組みができるように学校と地域とが情報共有・意見交換など連携を図っていく必要があります。

## ■■地域の人材育成■■

### (5)地域の人材育成

事業名 7. 地域ボランティアの育成	
第1次計画	
実施の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域ボランティアとして活動する組織づくりを検討します。</li> <li>●民生委員児童委員 OB やボランティア経験者等を地域ボランティアとして協力を要請します。</li> <li>●個人の特技や経験などを活かしたボランティアの養成を検討します。</li> <li>●また、ボランティア活動を必要とする人とボランティア活動ができる人を結びつける方法などについて検討します。</li> <li>●福岡教育大学や日本赤十字九州国際看護大学との連携について協議します。</li> </ul>
第1次計画に対する評価と課題	
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○福祉会役員会等で地域ボランティアの組織づくりについて検討しましたが、人材育成には至っていません。</li> <li>○高齢化や福祉活動の担い手不足により新しく地域ボランティアを育成することは難しい状況です。</li> <li>○コミュニティ運営協議会や民生委員児童委員、緑風園、宗像市、日本赤十字九州国際看護大学、福祉会、社協などで構成されている「よしたけ福祉の郷づくり会」では、高齢者等の地域住民が集う場として「居場所づくり」を進めており、参加者が講師になるなど個人の特技を活かしたボランティア活動を進めています。</li> <li>○ボランティアに関してのニーズが把握できていません。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■民生委員児童委員等を通じてボランティアのニーズの把握や掘り起しが必要です。</li> <li>■地域ボランティアの必要性については、「よしたけ福祉の郷づくり会」などと連携し、協議していく必要があります。</li> </ul>

### (6)地域住民への福祉活動の広報・啓発

事業名 8. 広報活動の充実	
第1次計画	
実施の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●広く住民に福祉会の活動が啓発できるよう、情報発信を強化します。</li> <li>●『吉武みんせい福祉便り』の情報提供の充実を図ります。</li> <li>●コミュニティの広報紙等に福祉会活動の情報を提供します。</li> </ul>
第1次計画に対する評価と課題	
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「吉武みんせい福祉便り」（月1回発行）とコミュニティ運営協議会の広報紙「しんたて」（月1回発行）に福祉会の活動紹介や地域福祉の情報を掲載し、地域住民に福祉活動の周知を図りました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「吉武みんせい福祉便り」やコミュニティ運営協議会の広報紙「しんたて」への福祉活動情報を継続して掲載していくとともに、福祉教育の取り組み等、新たな福祉情報を掲載するなど内容の充実を図る必要があります。</li> </ul>



### Ⅲ 吉武地区の現状について

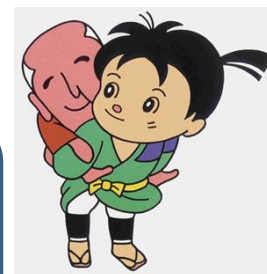
「策定委員会」の福祉座談会（グループワーク）の中で、「吉武のいいところ・今後も残していきたいところ」「改善したいこと・次世代に残したくないこと」、などについて意見を出しました。

#### ■「吉武地区のいいところ・今後も残していきたいところ」（抜粋）

- ・ 正助さんのような思いやりの心や助け合うという気持ちをみんなが持っている
- ・ 人と人との関わりが暖かい
- ・ 孝行ネットを実施している
- ・ 八所宮など伝統が守られている
- ・ 学校や地域の行事では地域全体で取り組むなど、子どもと大人の交流が多い
- ・ 各地域で集まる機会が多い
- ・ 自然が多い
- ・ 空気がきれい
- ・ 住みやすい

特徴として、

- 孝行の気持ち・思いやりがある
- 世代間交流がさかん
- 顔を合わせる機会が多い



#### ■「改善したいこと・次世代に残したくないこと」（抜粋）

- ・ 交通の便が悪い
- ・ お店や病院が遠い
- ・ 空き家・空地が多い
- ・ 少子高齢化
- ・ 一人暮らしの高齢者が増加している
- ・ お年寄りの居場所が少ない
- ・ 高齢化のため地域の当番や役員をする人が少ない
- ・ ボランティアをする人がいない

特徴として、

- 交通や病院・買い物に困っている・不便である
- 高齢化にともない地域の役やお世話できる人が少ない

## IV 基本理念

第2次吉武地区地域福祉活動計画では、第1次計画における基本理念と基本方針を継承し、吉武地区の現状に合わせて活動していきます。

### 基本理念

**～みんなが正助さん～**

### 基本方針

- 1. 地域ぐるみで親孝行**
- 2. 未来へつなぐ正助さんの人づくり**



## V 基本計画

### 1 地域ぐるみで親孝行

#### ■見守りネットワーク活動の推進

(1) よしたけ孝行ネットワーク活動を推進しよう

#### ■地域住民の交流の場づくり

(2) よしたけ福祉の郷づくり会を中心とした  
居場所づくりの場を広げよう

### 2 未来へつなぐ正助さんの人づくり

#### ■正助さんの人づくり

- (3) 世代間交流事業を行おう
- (4) 学校や地域での福祉学習に取り組もう
- (5) 協力者・応援者を増やそう
- (6) 福祉情報を伝えよう



## VI 実施計画

第1次計画の評価・課題を検討した結果を踏まえ、新たな5か年は下記の内容で取り組みます。

### ■見守りネットワーク活動の推進

事業名	1. よしたけ孝行ネットワーク活動を推進しよう ～吉武で安心して暮らしていくために～
目的	高齢化が進む中、住み慣れた吉武地区で今後も安心・安全に暮らしていくために、お互いに支え合い、つながりを作ることは必要です。高齢化や担い手不足のため、地域全体で高齢者や見守りが必要な世帯を見守っていく取り組みを進めます。
取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li>●隣組長や向こう三軒両隣など地域の人材を活用した日常的な見守りの体制づくりを進めます。</li><li>●地域で顔を合わせる機会が多い特徴を活かし、地域住民全体で見守りを行う体制づくりを進めます。</li><li>●自治会長会などを通じて「孝行ネット」の実態把握を行い、今後の推進方法について協議します。</li><li>●「孝行ネット」の啓発方法について検討し、さらなる啓発を図ります。</li></ul>

### ■地域住民の交流の場づくり

事業名	2. よしたけ福祉の郷づくり会を中心とした 居場所づくりの場を広げよう ～地域全体で支え合うために～
目的	吉武地区では、すみれサロンやバスハイク、遊ぼう会、八福神めぐりなど地域住民が集まる場（居場所）があります。少子高齢化が進む中、このような居場所づくりを進めることによって、つながりを強め、地域全体でお互いに見守る地域をつくることを目的に行います。
取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li>●よしたけ福祉の郷づくり会や宗像市、社会福祉協議会などと連携し、高齢者の「居場所づくり」を検討し、適宜実施します。</li><li>●「お茶のみ会」や「井戸端会議」など日頃から誰でも気軽に集える場を検討し、適宜実施します。</li></ul>

### ■正助さんの人づくり

事業名	3. 世代間交流を行おう ～つながりを広げるために～
目的	地域の子どもから高齢者まで交流することで、つながりの輪を広げていきます。高齢者から子どもへ交流を通して地域や福祉のことを伝えることで福祉の心を育て、次世代を担う人材（協力者・応援者）を増やすことにもつながります。
取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li>●コミュニティ運営協議会主催の寺子屋や主任児童委員・吉武小 PTA・学童保育などと連携し、子どもから高齢者まで幅広く交流できる取り組みを検討し、適宜実施します。</li></ul>

事業名	<b>4. 学校や地域での福祉学習に取り組もう</b> ～福祉の心を伝えるために～
目的	次世代を担う子どもたちに、地域の福祉活動などを伝えることにより、福祉の心を育てます。
取り組み	●地域や学校・社協と連携を図り、福祉教育に関して学年に応じた継続的な取り組みができるように推進していきます。

事業名	<b>5. 協力者・応援者を増やしていこう</b> ～よしたけの福祉を継承するために～
目的	吉武地区では、住みやすい地域にするために、様々な福祉活動を行っています。少子高齢化が進む中、今後も継続した福祉活動を行う為、次世代を担う人材（協力者・応援者）を増やしていく取り組みを進めます。
取り組み	●地域住民が参加・協力しやすいボランティア活動に関する取り組みを検討し、適宜実施します。

事業名	<b>6. 福祉情報を伝えよう</b> ～広報活動の充実～
目的	吉武地区の福祉活動や福祉情報を広く住民に知らせるとともに、福祉会や福祉活動に関心を持ってもらい、協力者・応援者を増やすことを目的に行います。
取り組み	●引き続き、地域の広報紙に福祉会や福祉活動の情報を掲載するとともに、福祉教育など新たな福祉情報を掲載し、内容の充実を図ります。 ●SNS（Facebook・Twitterなど）やホームページを活用し、幅広い年代への情報発信を行います。



## Ⅶ 資料編

### ■吉武地区の概要

#### (1) 歴史等



宗像市は、福岡市と北九州市の間にあるベッドタウンです。吉武地区は、宗像市の東に位置し、武丸正助や八所宮など歴史的観光・遺産があります。

平成4年には、市の農業体験施設「正助ふるさと村」が、同12年には、市を代表するスポーツ施設のひとつ、グローバルアリーナも地区内にでき、市街からも多くの人を訪れます。

## (2) 人口・世帯数等

### 1. 吉武地区の過去5年間の高齢化率等

地 域	世 帯 数	総 人 口	高 齢 者 数	高 齢 化 率
平成 25 年	855	1,877	775	41.3%
平成 26 年	850	1,879	784	41.7%
平成 27 年	855	1,845	793	43.0%
平成 28 年	849	1,827	793	43.4%
平成 29 年	845	1,826	792	43.4%

※基準日：各年3月末日現在

### 2. 吉武地区自治区別の人口

自治区	H30年3月末		0～14歳		15～64歳		65歳以上	
	世帯数	人口	人口	割合	人口	割合	人口	割合
吉留	74	164	10	6.1%	90	54.9%	64	39.0%
山附	91	217	21	9.7%	113	52.1%	83	38.2%
安ノ倉	26	58	1	1.7%	31	53.4%	26	44.8%
中ノ尾	71	131	2	1.5%	61	46.6%	68	51.9%
向口	60	132	15	11.4%	63	47.7%	54	40.9%
城南ヶ丘	324	742	104	14.0%	334	45.0%	304	41.0%
武本	66	143	7	4.9%	68	47.6%	68	47.6%
久戸	89	194	16	8.2%	87	44.8%	91	46.9%
緑風園	34	35	0	0.0%	1	2.9%	34	97.1%
教育大男子寮	10	10	0	0.0%	10	100.0%	0	0.0%
吉武地区計	845	1,826	176	9.6%	858	47.0%	792	43.4%

※基準日：平成30年3月末日現在（宗像市公式ホームページより）

## 吉武地区福社会地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

内規：平成29年8月24日

### (設 置)

第1条 吉武地区地域福祉活動計画（以下「計画」という。）を策定するため、吉武地区地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

### (目 的)

第2条 委員会は、長期的な視野に立ち、吉武地区の地域福祉の推進を目的とした計画を策定する。

### (構 成)

第3条 委員会は、13名以内とし、別表に掲げる者等をもって構成する。

2 委員は、吉武地区福社会長（以下「本会長」という。）が委嘱する。

### (役 員)

第4条 委員会には、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長、副委員長は、委員の互選による。

3 委員長は、会務を総括する。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。

### (委員会)

第5条 委員会は、委員長が招集し、議事等を進行する。

### (任 務)

第6条 委員会の任務は、計画（案）の作成とする。

### (財源等)

第7条 計画策定に関する諸経費は、主として宗像市社会福祉協議会（以下「社協」という。）の助成金をもってこれに充てる。

### (任 期)

第8条 委員の任期は、平成29年10月1日より平成30年3月31日までとする。

### (庶 務)

第9条 委員会の庶務は、主として社協が行う。

### (委 任)

第10条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項については、委員長と協議会長、社協会長が協議のうえ別に定める。

### 附 則

1 この要綱は、平成29年8月24日より施行する。

2 この要綱は、平成30年3月31日をもって廃止ものとする。



## 第2次吉武地区地域福祉活動計画

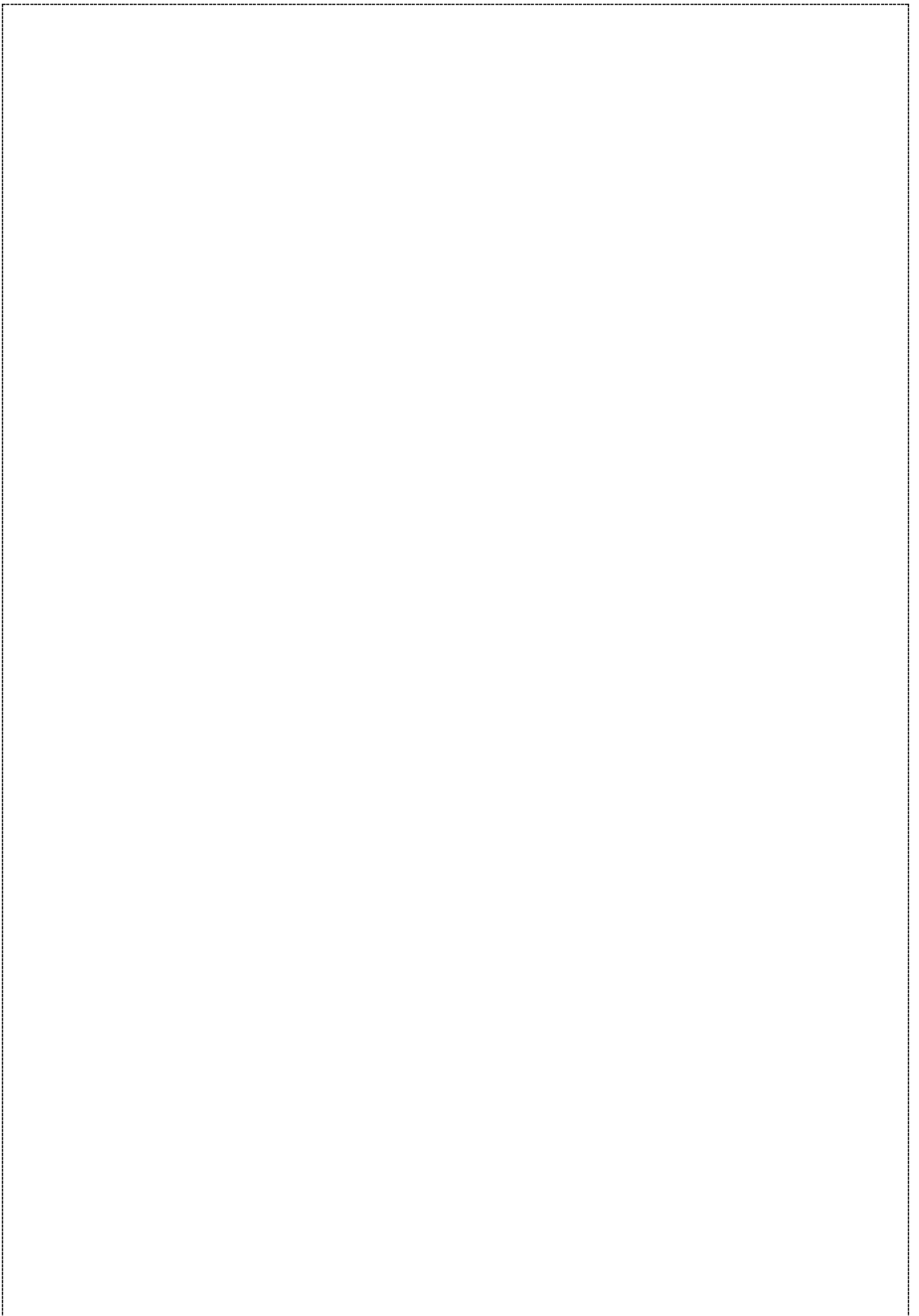
### 策定委員名簿

No	選出区分	氏名	備考
1	自治会長会	正野 好行	会長
2		原 一光	副会長
3	民生委員児童委員協議会	石松 正次	会長
4		野中 久美子	主任児童委員
5	長生会（シニアクラブ）	立石 侖	会長
6	コミュニティ運営協議会	花田 亮	会長 ★委員長
7		中川 由紀子	副会長
8		高山 國敏	事務局長
9	吉武小 PTA	川原 亘平	PTA 会長
10	ボランティア	乙藤 千恵子	すみれサロン
11	地区福社会	矢野 邦彦	会 長 ★副委員長
12		阿蘇 悦子	事務局長
13		前田 秀子	会計

## 第2次吉武地区地域福祉活動計画

### 策定委員会 スケジュール

日程	項目	内容
10月18日(水)	第1回策定委員会	(1) 委嘱状交付 (2) 委員長・副委員長の選任について (3) 地区別地域福祉活動計画の策定について (4) 第1次吉武地区地域福祉活動計画について (5) 第2次吉武地区地域福祉活動計画の策定に向けて
11月8日(水)	第2回策定委員会	福祉座談会①
12月13日(水)	第3回策定委員会	福祉座談会について (1) 第2回策定委員会の報告 (2) 福祉座談会②
1月24日(水)	第4回策定委員会	計画書(案)確認作業①
2月28日(水)	第5回策定委員会	計画書(案)確認作業②(最終確認)



発行／平成30年3月 作成／吉武地区福祉会  
編集／社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

〒811-3437 福岡県宗像市久原 180 番地  
Tel : 0940-37-1300 Fax : 0940-37-1393  
E-mail : [info@syakyo.munakata.com](mailto:info@syakyo.munakata.com)